



「食べ物でイメージするアジア」



アジアの経済は、それぞれの国や地域を食べ物に例えると、その発展の可能性がイメージしやすくなります。下の地図をご覧ください。

中国は国土の形が鶏に似ているので、鶏肉の部位で経済状況を地域別に捉えました。それぞれの地域で発展の過程が違うため、国の経済全体の動きを一羽の鶏のように語るのは無理があります。発展の中心は移り替わりました。ですので、そう簡単に中国の経済が失速、崩壊することはないと考えていました。しかし、これからはもうあまり美味しい鶏肉の部位は残っていないでしょう。

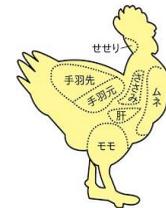
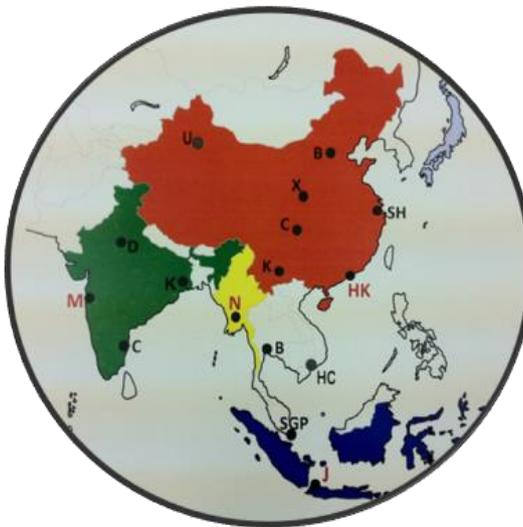
次にアセアンです。アセアンは東南アジア地域の10か国からなる地域協力機構です。地図の一番南方で東西に広がった国が、その中で最大の国土を持つインドネシアです。何となくお皿のように見えます。そのお皿の上に、アセアンの国々が恰もフードコートのように纏まっている感じです。それが2015年末に発足した経済共同体でした。しかし、そのフードコートのお客の入り、ミャンマーのクーデターの影響もあり、現在は当初の期待通りでない印象です。

21世紀はカレーの時代です。



インド経済の5つの基本スパイス

- 1. 人口
- 2. 経済力（内需、技術力）
- 3. 軍事力
- 4. 国際的な影響力
- 5. 文化力



そして、インドです。少し無理がありますが、国土の形はカレー料理についてくるナンに似ていませんか。インドは、その言語や宗教などの多様性のため、纏まりにくいバラバラな印象の国です。しかしこれからは、その多様性こ

そガラムマサラのようなベースとなり、インドの経済は国際的な影響力を強めていくでしょう。21世紀はスパイシーな時代になります。